

表 6. 食品に関して、業者に問い合わせたことがあるか

製造業者	ある	13.1%
	ない	86.9%
販売業者	ある	10.5%
	ない	89.5%

表 7. 食品に関して、業者に問い合わせたことがあるか

(食物アレルギー患者のいる世帯)

製造業者	ある	30.4%
	ない	69.6%
販売業者	ある	27.3%
	ない	72.7%

表 8. これまでに食物アレルギーに関する知識を得る機会があったか

	全体	食物アレルギー患者が いる世帯
ある	75.8%	91.3%
ない	24.2%	8.7%

食品の表示と購入に関する調査 結果

■全体

問1 あなたの家庭で利用している食品は主に誰が購入していますか。主なもの一つに○をつけてください。

	人	%
自分自身	275	96.5
その他同居している家族	10	3.5
その他	0	0.0
合計	285	100.0

問2 あなたの家庭で利用している食品は主にどこで購入していますか。主なもの一つに○をつけてください。

	人	%
スーパー	225	82.1
デパート	3	1.1
小売店	1	0.4
生協	41	15.0
その他	4	1.5
合計	290	100.0

問3 あなたは、食品を購入する際に食品の表示を見ますか。

	人	%
よく見る	73	25.3
まあまあ見る	144	50.0
あまり見ない	54	18.8
ほとんど見ない	17	5.9
合計	288	100.0

問4 1, 2に回答した方にお尋ねします。表示の中でよく見る表示(気に掛けている表示)は以下A.からI.までのどこの部分ですか。該当する記号の上位3つを順にあげてください。

1位	人	%
原材料表示	35	16.1
アレルギー表示	10	4.6
組み換え体表示	11	5.0
食品添加物表示	37	17.0
製造者	3	1.4
内容量	1	0.5
保存方法	0	0.0
賞味(消費)期限	115	52.8
栄養成分表示	6	2.8
合計	218	100.0

■食物アレルギーがいる世帯

問1 あなたの家庭で利用している食品は主に誰が購入していますか。主なもの一つに○をつけてください。

	人	%
自分自身	23	100.0
その他同居している家族	0	0.0
その他	0	0.0
合計	23	100.0

問2 あなたの家庭で利用している食品は主にどこで購入していますか。主なもの一つに○をつけてください。

	人	%
スーパー	21	95.5
デパート	0	0.0
小売店	0	0.0
生協	1	4.5
その他	0	0.0
合計	22	100.0

問3 あなたは、食品を購入する際に食品の表示を見ますか。

	人	%
よく見る	6	27.3
まあまあ見る	10	43.5
あまり見ない	5	21.7
ほとんど見ない	1	4.5
合計	22	100.0

問4 1, 2に回答した方にお尋ねします。表示の中でよく見る表示(気に掛けている表示)は以下A.からI.までのどこの部分ですか。該当する記号の上位3つを順にあげてください。

1位	人	%
原材料表示	3	17.6
アレルギー表示	8	47.1
組み換え体表示	1	5.9
食品添加物表示	1	5.9
製造者	1	5.9
内容量	0	0.0
保存方法	0	0.0
賞味(消費)期限	3	17.6
栄養成分表示	0	0.0
合計	17	100.0

2位	人	%
原材料表示	32	14.7
アレルギー表示	4	1.8
組み換え体表示	44	20.2
食品添加物表示	49	22.5
製造者	12	5.5
内容量	13	6.0
保存方法	7	3.2
賞味(消費)期限	30	13.8
栄養成分表示	27	12.4
合計	218	100.0

3位	人	%
原材料表示	36	16.5
アレルギー表示	5	2.3
組み換え体表示	38	17.4
食品添加物表示	30	13.8
製造者	11	5.0
内容量	12	5.5
保存方法	18	8.3
賞味(消費)期限	40	18.3
栄養成分表示	24	11.0
無回答	4	1.8
合計	218	100.0

2位	人	%
原材料表示	3	17.6
アレルギー表示	2	11.8
組み換え体表示	5	29.4
食品添加物表示	4	23.5
製造者	1	5.9
内容量	1	5.9
保存方法	0	0.0
賞味(消費)期限	1	5.9
栄養成分表示	0	0.0
合計	17	100.0

3位	人	%
原材料表示	0	0.0
アレルギー表示	1	5.9
組み換え体表示	2	11.8
食品添加物表示	3	17.6
製造者	0	0.0
内容量	1	5.9
保存方法	0	0.0
賞味(消費)期限	9	52.9
栄養成分表示	1	5.9
合計	17	100.0

問5 あなたは食品に関する情報を何から入手しますか。主な3つに○をつけてください。(複数回答)

	人	%
テレビ	243	86.8
雑誌	125	44.6
書籍	39	13.9
新聞	159	56.8
店頭のポスターなど	72	25.7
店頭の店員	5	1.8
生協	72	25.7
友人・知人	84	30.0
保健センター職員	1	0.4
病院職員	6	2.1
その他	8	2.9

問5 あなたは食品に関する情報を何から入手しますか。主な3つに○をつけてください。(複数回答)

	人	%
テレビ	19	82.6
雑誌	12	52.2
書籍	3	13.0
新聞	13	56.5
店頭のポスターなど	8	34.8
店頭の店員	1	4.3
生協	4	17.4
友人・知人	5	21.7
保健センター職員	0	0.0
病院職員	2	8.7
その他	1	4.3

問6 食品を店頭で購入する際に、不明なことがあった場合に店員に尋ねますか。

	人	%
ほとんど尋ねる	17	5.9
まあまあ尋ねる	55	19.1
あまり尋ねない	114	39.6
ほとんど尋ねない	102	35.4
合計	288	100.0

問6 食品を店頭で購入する際に、不明なことがあった場合に店員に尋ねますか。

	人	%
ほとんど尋ねる	1	4.3
まあまあ尋ねる	7	30.4
あまり尋ねない	8	34.8
ほとんど尋ねない	7	30.4
合計	23	100.0

問7 あなたは食品に関してこれまで製造業者に問い合わせ(電話等)をした経験がありますか。

	人	%
ある	38	13.1
ない	251	86.9
合計	289	100.0

問7 あなたは食品に関してこれまで製造業者に問い合わせ(電話等)をした経験がありますか。

	人	%
ある	7	30.4
ない	16	69.6
合計	23	100.0

問8 あなたは食品に関してこれまで販売業者に問い合わせ(電話等)をした経験がありますか。

	人	%
ある	30	10.5
ない	255	89.5
合計	285	100.0

問8 あなたは食品に関してこれまで販売業者に問い合わせ(電話等)をした経験がありますか。

	人	%
ある	6	27.3
ない	16	72.7
合計	22	100.0

問9 あなたの家庭の家族構成(同居している人)について、あなたを含め同居している人に○をつけてください。また、そのかたがたの食物アレルギーの有無についてお答えください。

	父親		母親	
	人	%	人	%
20歳未満	0	0.0	1	0.4
20～24歳	6	2.2	6	2.1
25～29歳	55	19.8	77	27.3
30～34歳	94	33.8	117	41.5
35～39歳	75	27.0	63	22.3
40～44歳	37	13.3	17	6.0
45～49歳	9	3.2	0	0.0
50～54歳	1	0.4	0	0.0
55～59歳	1	0.4	1	0.4
60歳以上	0	0.0	0	0.0
合計	278	100.0	282	100.0

	人	%
1人	1	0.3
2人	46	15.9
3人	96	33.2
4人	106	36.7
5人	21	7.3
6人	10	3.5
7人	4	1.4
8人	3	1.0
9人	1	0.3
10人	0	0.0
11人	1	0.3
合計	289	100.0

問10 あなたはこれまで食物アレルギーに関する知識を得る機会(雑誌、パンフレット、テレビなどを含む)はありましたか。

	人	%
ある	219	75.8
ない	70	24.2
合計	289	100.0

問9 あなたの家庭の家族構成(同居している人)について、あなたを含め同居している人に○をつけてください。また、そのかたがたの食物アレルギーの有無についてお答えください。

	父親		母親	
	人	%	人	%
20歳未満	0	0.0	1	4.8
20～24歳	1	5.0	0	0.0
25～29歳	5	25.0	7	33.3
30～34歳	5	25.0	6	28.6
35～39歳	4	20.0	6	28.6
40～44歳	4	20.0	1	4.8
45～49歳	1	5.0	0	0.0
50～54歳	0	0.0	0	0.0
55～59歳	0	0.0	0	0.0
60歳以上	0	0.0	0	0.0
合計	20	100.0	21	100.0

	人	%
1人	0	0.0
2人	2	8.7
3人	9	39.1
4人	10	43.5
5人	0	0.0
6人	1	4.3
7人	1	4.3
8人	0	0.0
9人	0	0.0
10人	0	0.0
11人	0	0.0
合計	23	100.0

問10 あなたはこれまで食物アレルギーに関する知識を得る機会(雑誌、パンフレット、テレビなどを含む)はありましたか。

	人	%
ある	21	91.3
ない	2	8.7
合計	23	100.0

平成14年度厚生科学研究（食品由来の健康被害に関する研究事業）
「食品表示が与える社会的影響とその対策及び国際比較に関する研究」

主任研究者 丸井英二（順天堂大学医学部公衆衛生学教室）

分担研究者 堀口逸子（同上）

食品の表示と購入に関する調査

●記入者について

健診を受診されたお子さんに対してご記入される方は

1.母 2.父 3.祖母 4.その他()

* 調査に関するお問い合わせ先:

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

TEL 03-5802-1049 FAX 03-3814-0305

順天堂大学医学部公衆衛生学教室

堀口 逸子（ほりぐち いつこ）

以下の質問にお答え下さい(裏面もあります)

問1 あなたの家庭で食品を購入するのは主に誰ですか。主なもの一つに○をつけてください。

1. 自分自身 2. その他同居している家族() 3. その他()

問2 あなたの家庭で利用している食品は主にどこで購入していますか。主なもの一つに○をつけてください。

1. スーパー 2. デパート 3. コンビニ 4. 小売店(市場など) 5. 生協 6. その他()

問3 あなたは、食品を購入する際に食品の表示を見ますか。

1. よく見る 2. まあまあ見る 3. あまり見ない 4. ほとんど見ない

問4 1, 2に回答した方におたずねします。表示のなかでよく見る表示(気に掛けている表示)は以下AからIまでのどこの部分ですか。該当する記号の上位3つを順にあげてください。

- 1位() 2位() 3位()

A 原材料表示		B アレルギー表示		C 組み替え体表示		D 食品添加物表示		E 製造者													
名称	スナック菓子					F 内容量		G 保存方法													
原材料名	コーン(遺伝子組換えでない)、植物油、でん粉、オニオンパウダー、砂糖、しょうゆ、食塩、チーズパウダー、ホエイパウダー(乳製品)、乾燥野菜、調味料(アミノ酸等)、香料、酸味料、パプリカ色素、(原材料の一部に小麦、豚肉、ゼラチンを含む)					H 賞味期限(または消費期限)															
						I 栄養成分表示															
内容量	65g					<table border="1"> <tr> <th colspan="2">栄養成分表示(1袋 65g あたり)</th> </tr> <tr> <td>エネルギー</td> <td>340kcal</td> </tr> <tr> <td>タンパク質</td> <td>3.9g</td> </tr> <tr> <td>資質</td> <td>16.9g</td> </tr> <tr> <td>炭水化物</td> <td>41.7g</td> </tr> <tr> <td>ナトリウム</td> <td>400mg</td> </tr> </table>				栄養成分表示(1袋 65g あたり)		エネルギー	340kcal	タンパク質	3.9g	資質	16.9g	炭水化物	41.7g	ナトリウム	400mg
栄養成分表示(1袋 65g あたり)																					
エネルギー	340kcal																				
タンパク質	3.9g																				
資質	16.9g																				
炭水化物	41.7g																				
ナトリウム	400mg																				
賞味期限	欄外下部に記載																				
保存方法	直射日光、高温多湿を避け、常温で保管してください。																				
製造者	○○株式会社 〒123-4567 △△県××市□□町8-9																				

問5 あなたは食品に関する情報を何から入手しますか。主な3つに○をつけてください。

1. テレビ 2. 雑誌 3. 書籍 4. 新聞 5. 店頭のポスターなど 6. 店頭の店員
7. 生協 8. 友人・知人 9. 保健センター職員 10. 病院職員 11. その他()

問6 食品を店頭で購入する際に、不明なことがあった場合に店員に尋ねますか。

1. ほとんど尋ねる 2. まあまあ尋ねる 3. あまり尋ねない 4. ほとんど尋ねない

問7 あなたは食品に関してこれまで製造業者に問い合わせ(電話等)をした経験がありますか。

1. ある(内容:) 2. ない

問8 あなたは食品に関してこれまで販売業者に問い合わせ(電話等)をした経験がありますか。

1. ある(内容:) 2. ない

問9 あなたの家庭の家族構成(同居している人)について、あなたを含め同居している人に○をつけてください。また、そのかたがたの食物アレルギーの有無についてお答えください。

属性	年齢	性別	食物アレルギーの有無 1.なし 2.以前あり(診断された) 3.以前あり(診断されていない) 4.現在あり(診断されている) 5.現在あり(診断されていない)
父	満 歳	男	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
母	満 歳	女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
子ども1	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
子ども2	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
子ども3	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
子ども4	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
子ども5	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
祖父1	満 歳	男	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
祖父2	満 歳	男	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
祖母1	満 歳	女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
祖母2	満 歳	女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
曾祖父	満 歳	男	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
曾祖母	満 歳	女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
その他	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
その他	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)
その他	満 歳	男・女	1.なし 2.以前あり(診断あり) 3.以前あり(診断なし) 4.現在あり(診断あり) 5.現在あり(診断なし)

問10 あなたはこれまで食物アレルギーに関する知識を得る機会(雑誌、パンフレット、テレビなどを含む)はありましたか。

1. ある 2. ない

ご協力ありがとうございました

厚生労働科学研究費補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）
分担研究報告書

食品製造業者の食物アレルギーとその表示に対する理解度と食品衛生教育プログラムの効果

分担研究者 堀口 逸子 順天堂大学医学部公衆衛生学教室 助手

研究要旨

アレルギー表示制度を遵守すべき食品製造業者の食物アレルギーとその表示に関する理解度を明確にし、それらを対象とした衛生教育を行いそのプログラムを評価することを目的とした。教育プログラムはその目的を食物アレルギーとその表示に関する知識習得とした。研修会に参加した食品製造業者151社を対象として、研修会前後に質問紙調査を行った。その結果、食物アレルギーとその表示に関する知識に対する質問項目15問のうち、全体の2/3以上正解したものは全体の約30%であった。また研修会受講後アレルギー表示に取り組む意欲および正確性の追求、表示の再確認に対して高率を示した。一般的な知識が普及することが表示制度の発展には必要と考えられ、勉強会の機会や媒体の充足、また、教育プログラムの開発とその評価が重要であると考えられた。

A 研究目的

アレルギー表示制度を遵守すべき食品製造業者の食物アレルギーとその表示に関する理解度については明確とはなっていない。そして、アレルギー表示違反発見による商品回収などの社会的問題が引き起こされた。

今回の研究では、食品製造業者の食物アレルギーとその表示に関する理解度を明確にし、食品衛生教育プログラムの効果を評価することを目的とした。

B 研究方法

某食品流通業者が自社ブランドを製造している食品製造業者を対象として「食物アレルギーとその表示に関する研修会」を企画した。研修会に参加した食品製造業者151社の担当者を対象とした。

教育プログラムは、小児アレルギー専門医との検討により、最小限伝えるべき知識を整理し開発した。教育プログラムの目的は、食物アレルギー

とその表示に関する知識の習得とし、1回のみのもので、所用時間1時間30分で実施することとした。（教育プログラム：資料参照）

研修会前の理解度および教育プログラムの効果の評価は、自記式質問紙によった。研修会前の理解度として、食物アレルギーに関する知識10問、アレルギー表示に関する知識5問の合計15問からなるクイズ形式の質問を設定し、○または×で回答を求めた（表1）。教育プログラムはこの15問の質問順に知識を伝達するように組み立てられている。また各食品製造業者の背景として、フェイスシートに、担当業務、担当年数、相談先の有無、資料の有無、勉強の機会の有無、経営陣の理解の7問を設定した。質問紙は、研修会当日の講義開始前に配布回収した。

教育プログラムの効果については、10問からなる質問紙によって行い、講義終了後配布回収を行った。

C 結果

回収率は100%であった。

回答者の属性は、営業担当が全体の半数を超えていた。次いで管理職22.0%、品質管理15.7%であった(図1)。担当年数は10年以上が約30%で、1年未満が約10%、1~3年未満、3~5年未満、5~10年未満はいずれも約20%であった(図2)。表示に関する相談先では、アレルギー表示、表示全般ともに「あまりない」「ほとんどない」としたのは約12%であった。勉強の機会や資料については、食物アレルギーとその表示に関して約30%が、表示に関して約25%が「あまりない」「ほとんどない」としていた。経営陣の理解については、「十分ある」「まあまあある」が85%を超えていた。

食物アレルギーとその表示に関する理解度では、全問正解者はいなかった。最低正解数は3個であった。全体の2/3以上正解したものは全体の約30%であった。正解数が9個と10個が最も多く、ともに18.6%であった(図3)。質問別に見ると、正解率が最も高かったのは「食物アレルギーで死ぬことはない(×)」の97.5%であった。次いで「食物アレルギーは子どもの時に発症する(×)」85.5%、「乳化剤は牛乳から作られると思っている食物アレルギー患者がいる(○)」85.4%であった。正解率が低かったのは、「食生活の欧米化が原因で食物アレルギー患者が増えている(×:科学的には明らかになっていない)」27.8%、「アレルギー表示制度は日本以外でも制度かされている(×)」14.1%、「アレルギー物質が微量に混入していると想像できる場合には、表示すべきである(×:確認が必要。可能性表示の禁止)」11.3%であった(図4)。

研修会の評価では、内容と配布資料については「十分満足」「まあまあ満足」としたのは80%を上回っていた(図5)。理解についても、食物アレルギーの症状と検査、表示制度の目的、いずれも「十分満足」「まあまあ満足」としたのは全体の98%と高率であった。今後の姿勢として、アレルギー表示に取り組む意欲および正確性の

追求、表示の再確認に対しても95%以上が「十分思った」「まあまあ思った」と回答した。そして学習の継続に対する意欲も100%に達した。しかし、問い合わせに対応できる自信は「十分ある」「まあまあある」は約70%であり、講演内容について共有をはかることが重要であると「十分思った」ものが90%、「まあまあ思った」を合計すると約100%であった(図6)。

D 考察および結論

食物アレルギー表示制度が始まり、急遽加工食品を製造する企業においてはその対応が求められた。正確な表示を行うためには、まず、食物アレルギーに関する一般的な知識をもち、それにより表示制度の目的や重要性が認識することが必要であり、次いで、実際の表示をつくるスキルを習得することと考え、今回の教育プログラムの目的を知識の習得と位置づけた。そのため、講習会方式をとった。

研修会参加者は、実際の表示作成者ではない営業担当が最も多かったが、販売業者と直接接する営業担当者が食物アレルギーとその表示について理解することも重要であると考え。相談先については、充足していることが伺えたが、勉強会や資料については30%の企業において十分とはいえず、早急に教育媒体や教育機会を充足させていくことが必要であると考えられる。

参加者の知識の現状としては、全体の2/3以上の正解者が約30%と少なく、一般的な知識が普及することが表示制度の発展には必要と考える。そのためにも勉強会の機会や媒体の充足、また、教育プログラムの開発とその評価が重要となる。

研修会の評価では、知識の習得度の変化については測定することを避けたが、自己評価として一般的な知識が身につけられたと考えられる。また、正確性を追求する重要性や現在の自社製品の表示を見直そうという認識が見られた。しかし、問い合わせへの対応の自信については、十分ではなかった。対応は、知識だけでなく、コミュニケーションのスキルや、また利用できる媒体など、講

習会形式では習得できない要因にも影響され
ると考えられる。「知識習得」および「表示に対
する認識」については、教育プログラムの効果はあ
ったと考える。

E. 健康危険情報

なし。

F. 研究発表

なし。

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

H. 研究協力者

高橋謙造（恩師財団母子愛育会 リサーチレジ
デント）

表1 食物アレルギーとアレルギー表示に関わる質問項目

質問番号	回答	質問文
1	×	食物アレルギーの主な症状は、じんましんである。
2	×	食物アレルギーで死ぬことはない。
3	×	食物アレルギーの診断は、血液検査の結果で行う。
4	×	食物アレルギーは、一生治らない。
5	×	アトピーの人は、食物アレルギーである。
6	×	食物アレルギーは、子どもの時に発症する。
7	×	食物アレルギーは、母親から遺伝する。
8	×	食物アレルギーの原因となる物質は、24品目に限られている。
9	×	全ての民族で、5大アレルゲンは同じである。
10	×	食生活の欧米化が原因で、食物アレルギー患者が増えている。
11	×	アレルギー表示は、日本以外でも制度化されている。
12	×	消費者は、食品を食べた後に体調が悪くなった場合、食品製造業者に直接問い合わせることが多い。
13	○	乳化剤は牛乳から作られる、と思っている食物アレルギー患者がいる。
14	×	食物アレルギー患者にとっては、個別表示も一括表示も変わらない。
15	×	アレルギー物質が微量に混入していると想像できる場合には、表示すべきである。

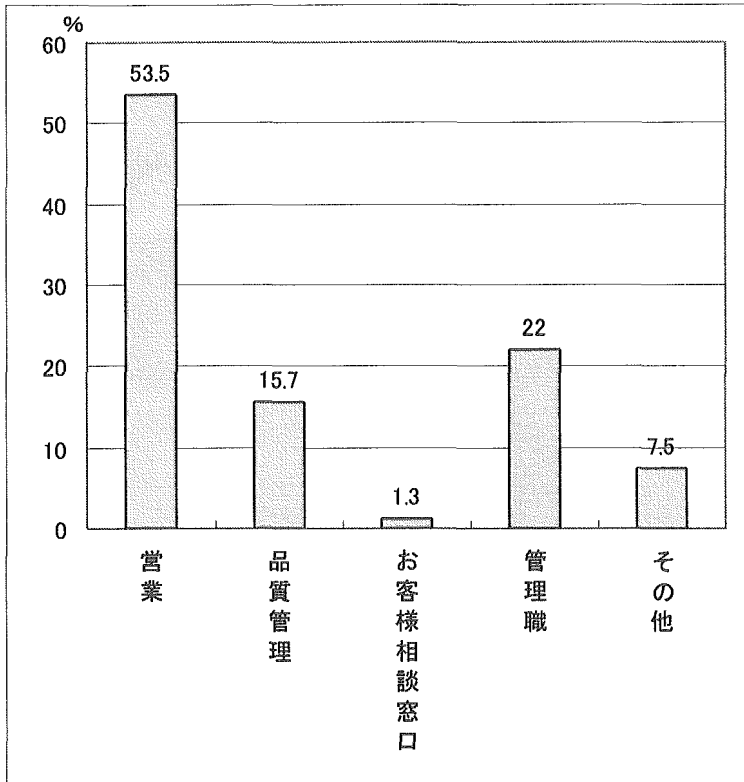


図1 回答者の属性

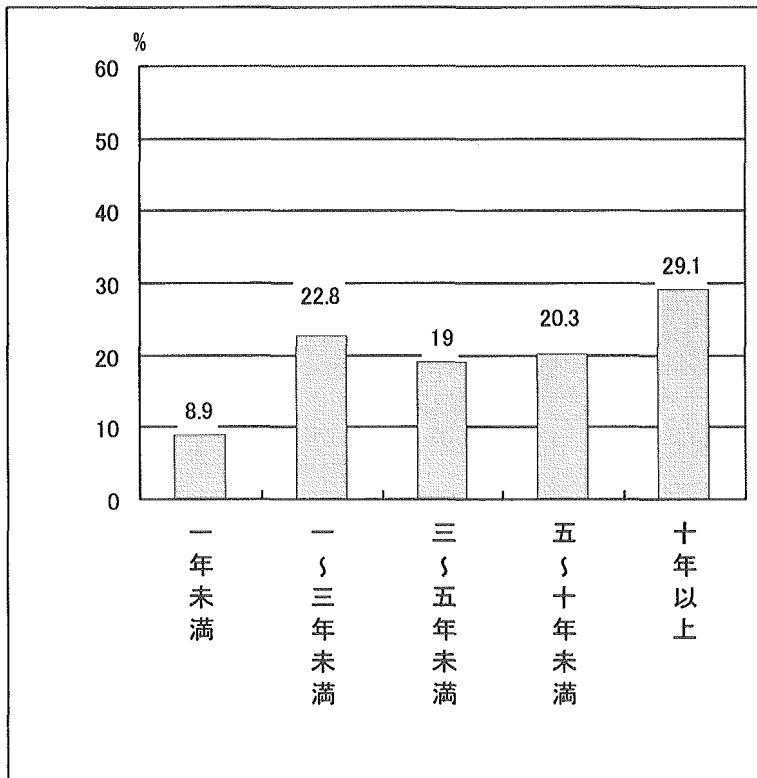


図2 回答者の担当年数

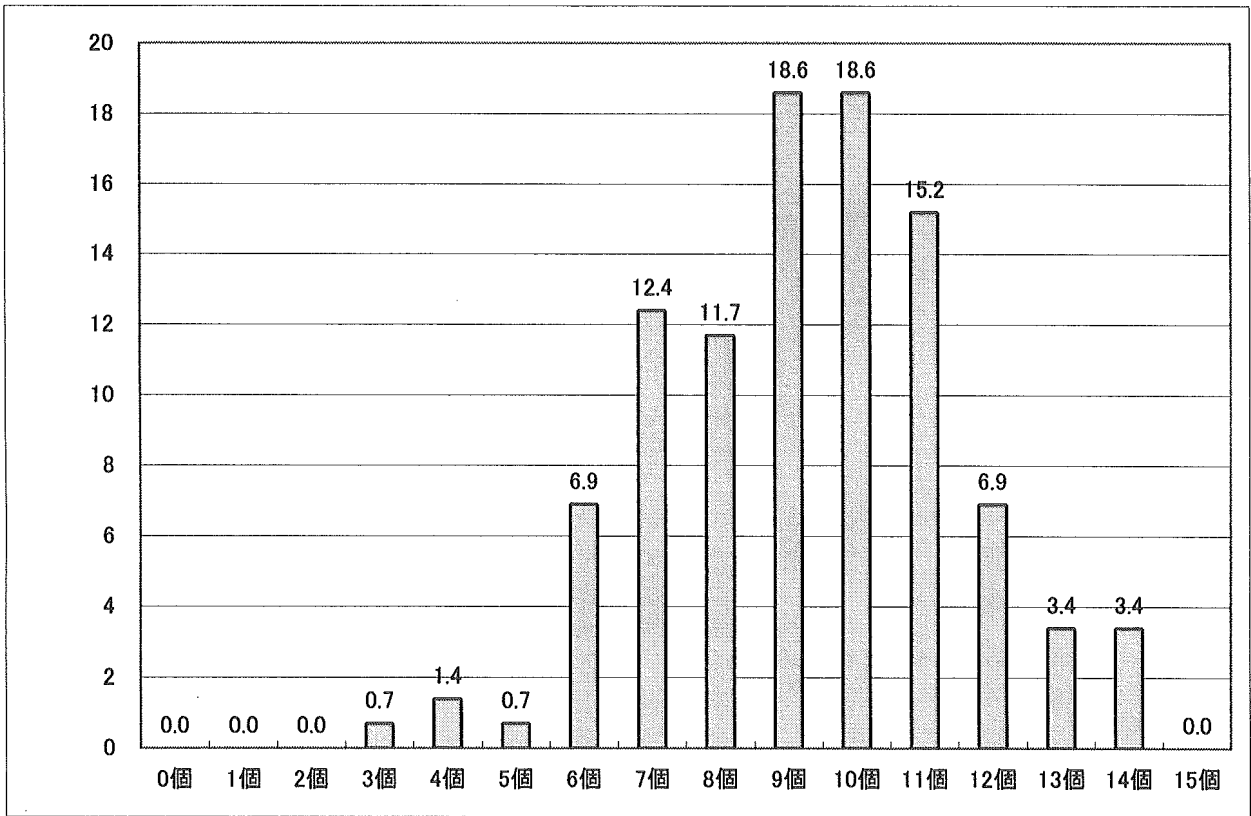


図3 食物アレルギーとアレルギー表示に関わる質問項目の正答数の分布

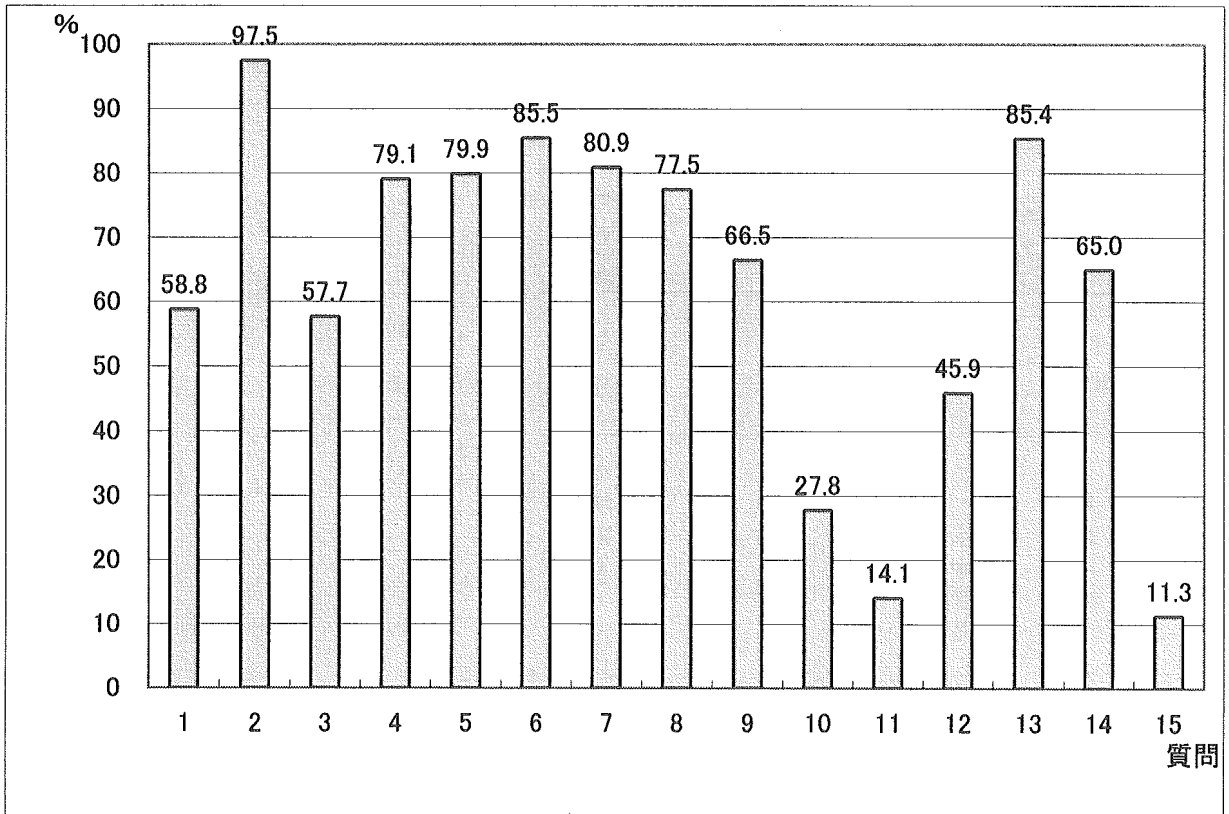


図4 質問項目別正答率

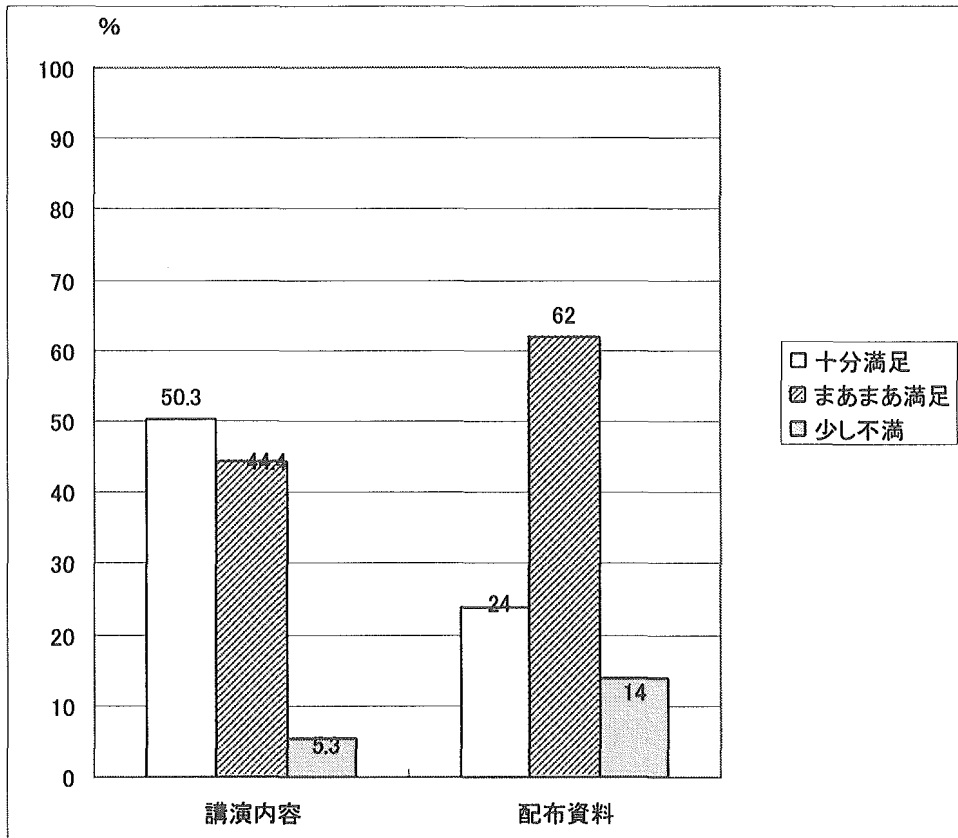


図5 研修会の満足度

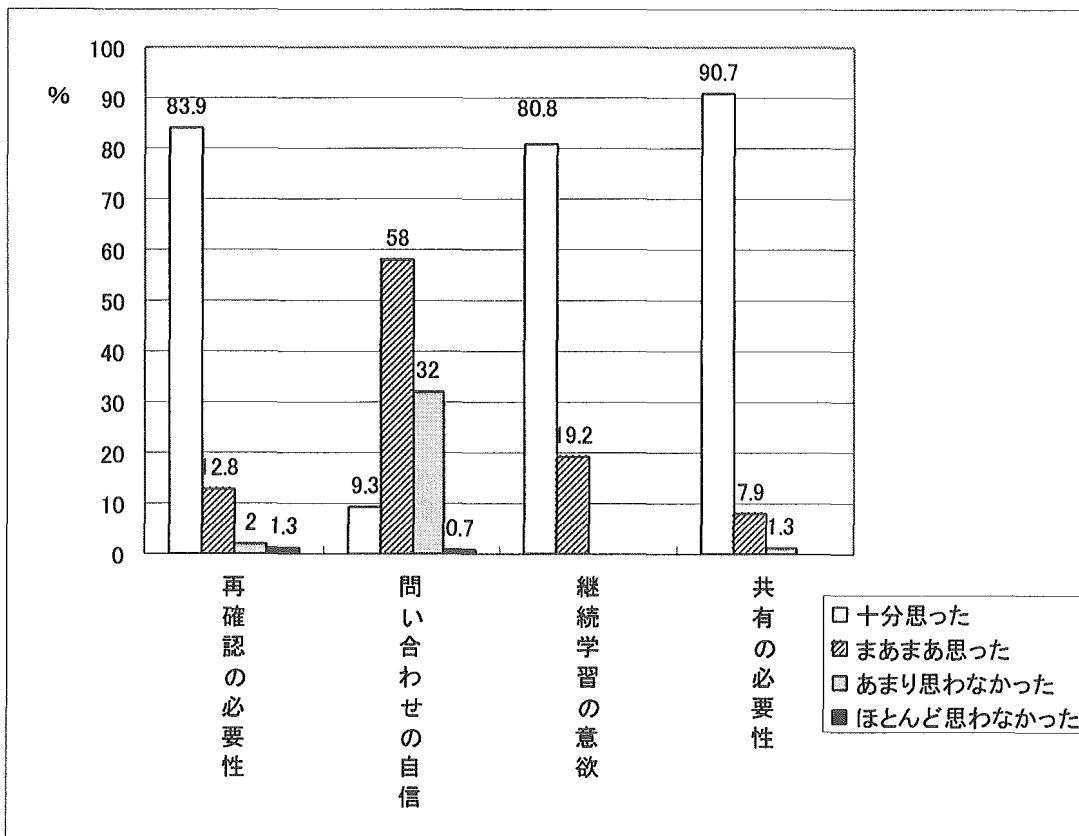


図6 今後の姿勢

食品製造業者を対象とした食品衛生教育の効果－食物アレルギーとその表示に関して－ 事前調査結果

担当業務

	度数	%	累積%
営業	85	53.5	53.5
品質管理	25	15.7	69.2
お客様相談窓口	2	1.3	70.4
管理職	35	22.0	92.5
その他	12	7.5	100.0
合計	159	100.0	

担当年数

	度数	%	累積%
1年未満	14	8.9	8.9
1～3年未満	36	22.8	31.6
3～5年未満	30	19.0	50.6
5～10年未満	32	20.3	70.9
10年以上	46	29.1	100.0
合計	158	100.0	

Q1表示全般に関する相談先

	度数	%	累積%
十分ある	66	41.8	41.8
まあまあある	72	45.6	87.3
あまりない	15	9.5	96.8
ほとんどない	5	3.2	100.0
合計	158	100.0	

Q2アレルギー表示に関する相談先

	度数	%	累積%
十分ある	60	37.7	37.7
まあまあある	71	44.7	82.4
あまりない	20	12.6	95.0
ほとんどない	8	5.0	100.0
合計	159	100.0	

Q3表示全般に関する勉強の機会、資料

	度数	%	累積%
十分ある	27	17.0	17.0
まあまあある	94	59.1	76.1
あまりない	30	18.9	95.0
ほとんどない	8	5.0	100.0
合計	159	100.0	

Q4食物アレルギーと表示について勉強の機会、資料

	度数	%	累積%
十分ある	30	18.8	18.8
まあまあある	87	54.4	73.1
あまりない	34	21.3	94.4
ほとんどない	9	5.6	100.0
合計	160	100.0	

Q5アレルギー表示の重要性にかんしての経営陣の理解

	度数	%	累積%
十分ある	89	56.3	56.3
まあまあある	48	30.4	86.7
あまりない	17	10.8	97.5
ほとんどない	4	2.5	100.0
合計	158	100.0	

Q6

	度数	%
q1食物アレルギーの主な症状はじんましんである	94	58.8
q2食物アレルギーで死ぬことはない	155	97.5
q3食物アレルギーの診断は、血液検査の結果で行う	90	57.7
q4食物アレルギーは一生なおらない	125	79.1
q5アトピーの人は食物アレルギーである	127	79.9
q6食物アレルギーは子どもの時に発症する	136	85.5
q7食物アレルギーは母親から遺伝する	127	80.9
q8食物アレルギーの原因となる物質は24品目に限られている	124	77.5
q9全ての民族で5大アレルゲンは同じである	103	66.5
q10食生活の欧米化が原因で食物アレルギー患者が増えている	44	27.8
q11アレルギー表示は日本以外でも制度化されている	22	14.1
q12消費者は食品を食べたあとに体調が悪くなった場合製造業者に直接問い合わせることが多い	73	45.9
q13乳化剤は牛乳から作られると思っている食物アレルギー患者がいる	135	85.4
q14食物アレルギー患者にとっては個別表示も一括表示もかわりがない	104	65.0
q15アレルギー物質が微量に混入していると想像できる場合には、表示すべきである	18	11.3

食品製造業者を対象とした食品衛生教育の効果－食物アレルギーとその表示に関して－
事後調査結果

Q1講演内容の満足度

	度数	%	累積%
十分満足	76	50.3	50.3
まあまあ満足	67	44.4	94.7
少し不満	8	5.3	100.0
かなり不満	0	0.0	100.0
合計	151	100.0	

Q2配布資料の満足度

	度数	%	累積%
十分満足	36	24.0	24.0
まあまあ満足	93	62.0	86.0
少し不満	21	14.0	100.0
かなり不満	0	0.0	100.0
合計	150	100.0	

Q3食物アレルギーの症状や検査についての理解度

	度数	%	累積%
十分できた	61	40.7	40.7
まあまあできた	85	56.7	97.3
あまりできなかった	4	2.7	100.0
ほとんどできなかった	0	0.0	100.0
合計	150	100.0	

Q4アレルギー表示制度の目的の理解度

	度数	%	累積%
十分できた	82	54.7	54.7
まあまあできた	65	43.3	98.0
あまりできなかった	3	2.0	100.0
ほとんどできなかった	0	0.0	100.0
合計	150	100.0	

Q5アレルギー表示に取り組む意欲

	度数	%	累積%
十分思った	134	89.3	89.3
まあまあ思った	14	9.3	98.7
あまり思わなかった	2	1.3	100.0
ほとんど思わなかった	0	0.0	100.0
合計	150	100.0	

Q6正確性の追求

	度数	%	累積%
十分思った	135	90.0	90.0
まあまあ思った	14	9.3	99.3
あまり思わなかった	1	0.7	100.0
ほとんど思わなかった	0	0.0	100.0
合計	150	100.0	

Q7表示の再確認の必要性の認識

	度数	%	累積%
十分思った	125	83.9	83.9
まあまあ思った	19	12.8	96.6
あまり思わなかった	3	2.0	98.7
ほとんど思わなかった	2	1.3	100.0
合計	149	100.0	

Q8問い合わせに対応できる自信

	度数	%	累積%
十分ある	14	9.3	9.3
まあまあある	87	58.0	67.3
あまりない	48	32.0	99.3
ほとんどない	1	0.7	100.0
合計	150	100.0	

Q9学習継続の意欲

	度数	%	累積%
十分思った	122	80.8	80.8
まあまあ思った	29	19.2	100.0
あまり思わなかった	0	0.0	100.0
ほとんど思わなかった	0	0.0	100.0
合計	151	100.0	

Q10講演内容の共有

	度数	%	累積%
十分思った	137	90.7	90.7
まあまあ思った	12	7.9	98.7
あまり思わなかった	2	1.3	100.0
ほとんど思わなかった	0	0.0	100.0
合計	151	100.0	

食物アレルギーとアレルギー表示

順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子
 恩賜財団母子愛育会（千葉西病院） 高橋謙造

食物アレルギーとは Food Allergy

食物抗原に対する免疫学的反応
 特定の食べ物を食べたときに起こるアレルギー反応

じんましん、ゼイゼイ、咳、嘔吐

■事例

先日、知人から頂いたみやげ菓子をピーナツ非含有であることを確かめて食べたにもよらず、1時間後に呼吸困難、浮腫、全身蕁麻疹をともなうアナフィラキシーショックを起こして搬送、入院となりました。幸い回復しましたが、お菓子しか原因が考えられなかったため、メーカーに問い合わせたところ、製造工程でピーナツサブレとミキサーを共有しており、ピーナツサブレ製造後の洗浄が不十分であった為、混入事故があったことが判明しました。

—食品表示研究班アレルギー表示検討会中間報告書資料より—

アナフィラキシーショックとは

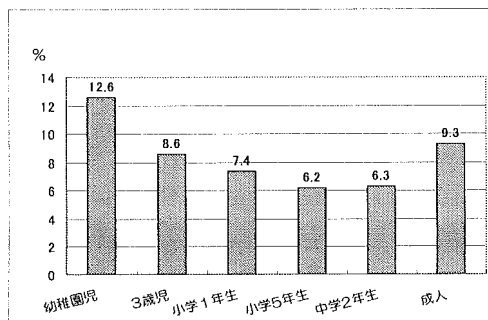
全身が熱くなる、全身が赤くなる、呼吸がゼイゼイする、オットセイのような咳が出る、顔が青ざめる、脈が弱くなる

食物アレルギーの診断

- 皮膚テスト
 - プリックテスト
 - 皮内テスト
 - アレルギー抽出液の皮内注射など
- 試験管内IgE抗体検出法
 - IgE CAPRAST法
 - 放射性同位元素でアレルギー抗体を測定
 - ヒスタミン遊離反応
- 食物負荷試験
 - 実際の食物を摂取して反応を検証する

年齢別食物アレルギー発症頻度

—食物アレルギー対策検討委員会報告書より—



食物アレルギー反応をきたしたアレルギー物質の内訳

